

令和二年一月に端を発した新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、美川地域の経済も急速に悪化、特に飲食業は、大きな影響を受け、売上が大幅に減少していました。また、人口の減少・高齢化等により、地域商業が衰退する中、新たな観光需要を掘り起こす必要があることから地域の交流人口の拡大と観光消費額の増加に向けた取組を早急に実施するよう美川商工会に求められていました。

行きます・聞きます・提案します
そして 伴走します
 ～商工会の支援事例～ **26**

美川の歴史・食文化等を活用した観光誘客による商業活性化事業の実施

<https://mikawa.shoko.or.jp/kankou/>

GOTO商店街事業の補助金を活用

このような状況の中、中小企業庁は、令和二年十月に新型コロナウイルスの感染拡大により疲弊した経済の活性化を図ることを目的に、需要喚起策の一つとして商店街を支援する「GOTO商店街事業」の公募を開始しました。商業部会は、このチャンスをとらえ上限300万円の補助金事業への申請を行いました。

事業名は「日本遺産・美川の食文化等を活用した観光誘客による地域商業の活性化事業」としました。

事業の核は「ふぐ」

事業内容は、北前船の寄港地であった漁港まち・美川地域の「漁食」や石川県で製造を許された奇跡の発酵食「ふぐの卵巣の糠漬」を核として、まず、飲食店や食品製造販売、温泉施設等の商業店舗を観光資源として魅力高め、パンフレットやホームページの広報ツールで、情報発信する取組を進めることとしました。

美川の魅力を満載！

この事業で制作したパンフレットは、「北前船が育んだ、ふぐのまち「美川みなとまち散歩」をタイトルとし、地域の発酵食文化や美川の特産品であるふぐの子、日本遺産をはじめとした観光スポットのほか、飲食店や土産店、宿泊施設等の観光関連二十店舗を紹介。一人でも多くの方々が「足を運んでみたい」とい



美川の魅力を満載したパンフレット

う気持ちをもってもらえるよう美川の魅力満載の仕上がりになりました。

また、この事業にあわせて企画した美川の新名物「ふぐのおやこ料理」は、美川の特産品であるふぐの卵巣の糠漬「ふぐの子（II子）」と、石川県産のふぐを中心とした新鮮な「ふぐの身（II親）」を使用した創作料理として会員飲食店六店舗で提供しました。



美川の新名物「ふぐのおやこ料理」

これらの取組が地元メディアに取り上げられると、新しく「ふぐのまち美川」としてのイメージが広がり、「ふぐを気軽に食べることができ」と近隣の金沢市や小松市などから多くの利用客がありました。

誘客事業の成果に期待

コロナ禍の影響もあり本事業は首都圏からの誘客にはあまり貢献できていない状況ですが、金沢駅、金沢や美川周辺の宿泊施設からパンフレットの追加郵送の依頼があるほか、首都圏でも石川県のふぐはブランド化されつつあるようです。

県内旅行会社では、旅行商品化に向けた取組も検討されているようであり、アフターコロナや北陸新幹線敦賀延伸に向けた観光誘客事業として今後発展していくことを期待しています。

担当経営指導員から一言

- 商工会が主体となり、地域一体の魅力を創出する取組を企画し、美川地域の観光誘客に向けた新たな地域活性化事業に取り組むことができました。

美川商工会経営指導員
川元 浩

美川商工会

〒929-0024
 白山市美川中町ソ58番地
 TEL 076-278-3328

この事例は、令和三年度石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。